

保育所主任保育士がとらえた乳児保育の課題

— 乳児・低年齢児保育の実態及び担当者の意識調査のための基礎データ —

林 陽 子

要 旨 今後の乳児・低年齢児保育の内容・方法の充実・改善のためには、できる限り客観的で一定規模の調査研究が必要である。そのため、愛知県内 66 箇所保育所を対象に、そこに勤務する主任保育士が感じている乳児・低年齢児保育の課題について、自由記述方式のアンケート調査を実施した。その結果、保育担当制、保育内容、保育室等の物的条件、保護者対応、その他乳児・低年齢児保育が抱える今日的課題等について、多くの記述が得られた。また、それらは、それぞれに複雑かつ多様に関連していることが明らかになった。これらの記述は、今後の調査研究のための質問紙の作成に、きわめて有効な基礎データとなることが分かった。

abstract

To enrich or improve the care for infants and younger children, the author conducted objective, free-description type questionnaire survey of chief nurses working for 66 child-care centers in Aichi Prefecture about problems with the care for infants and younger children. The author received ample descriptions about child-care assignment system, child-care contents, physical conditions, guardians' responses, etc., and found that they were related mutually, complicatedly and variously, and that these descriptive answers would serve as basic data for questionnaire form making.

I 研究の動機

少子化対策の一環として、保育所における特別保育メニューの拡充が強調されて久しい。このメニューのうち、子育て支援メニューとして、また保育所入所待機児童解消メニューとして重要な位置にあるのが、乳児・低年齢児保育の定員枠の増加という量的拡大と、乳児・低年齢児のより豊かな発達の保障という質的な充実である。これは、乳児・低年齢児保育の需要の増加が背景にあるが、そのまた背景には、女性の働く機会が増加したことを受けて、子育てしつつ働く女性や、家庭や家族の直面している状況から働かざるを得なくなった子育て中の女性の増加がある。したがって、乳児・低年齢児の保育は、しばしば乳幼児の保育のみならず、家庭の問題や家族の問題にまで及ぶ支援を要求されることがある。

近年出会う乳児・低年齢児担当の保育者は、必ずと言ってよいほど、家庭や家族の問題を口にするのも肯ける。この状況は、今後も続くことが予想され、乳児・低年齢児の保育は、益々需要が高まると同時に、その質的な向上も望まれるであろう。

そこで、今後の乳児・低年齢児の課題を明らかにするために、今日の乳児・低年齢児保育の実態と担

当者の意識を詳細に把握する必要がある。そのためには、実態と意識を可能な限り正確に把握することができる調査用紙の作成が必須である。

本報告は、今後の実態と意識の把握のための調査用紙作成を目指して、今日の乳児・低年齢児保育の現場における課題を収集し基礎データとして示したものである。

II 研究の方法

- ・愛知県内の保育所に勤務する主任保育士が感じている課題についてアンケート調査する。
- ・アンケート調査は自由記述方式で行った。

III 研究の内容

1. 調査の対象

愛知県が委託した、2006 年度愛知県現任保育士指導者養成研修《主任保育士研修》における受講生 69 名に対して実施した。なお、愛知県現任保育士指導者養成研修の委託先は、愛知県現任保育士研修運営協議会である。本協議会は、愛知県全域の保育士養成施設（4 年制大学・短期大学・専門学校）の

うち、すべての私立養成施設が加盟している。

69名の勤務先市町村の内訳は、以下の通りである。

○尾張地方（尾張）・・・30名（10市3町）

一宮市—6 春日井市—3 犬山市—1
江南市—2 小牧市—3 稲沢市—5
尾張旭市—1 岩倉市—1 豊明市—4
日進市—1 東郷町—1 扶桑町—1
大口町—1

○尾張地方（海部）・・・7名（2町）

甚目寺町—6 蟹江町—1

○尾張地方（知多）・・・9名（5市2町）

半田市—2 常滑市—1 東海市—1
大府市—2 知多市—1 東浦町—1
武豊町—1

○三河地方（西三河）・・・21名（8市2町）

岡崎市—4 碧南市—4 刈谷市—2
豊田市—3 安城市—2 西尾市—1
知立市—1 高浜市—1 一色町—1
幸田町—2

○三河地方（東三河）・・・2名（2市）

豊橋市—1 豊川市—1

上記のように、本調査は、25市9町に及ぶ保育所に勤務する主任保育士を対象としている。これは、名古屋市を除く34市の74%、28町村の32%にあたる。したがって、本調査の結果は、かなりの程度、愛知県全般の乳児・低年齢児の保育の実態及び担当者の意識を表したものと言えよう。

2. 調査時期

2006年7月25日から8月25日に開講された、18日間（72コマ・144時間）の《主任保育士研修》の中で「乳児保育」の授業において実施した。

3. 調査の内容

調査は、以下の15項目について質問し、園児数及び担当制に関する質問以外は、自由記述によって回答を得た。

- ① 全体の園児数と乳児・低年齢児の人数、保育士数
- ② 回答者の乳児・低年齢児保育の経験
- ③ 担当制を敷いているか。敷いているとしたら、担当制について感じていること
- ④ 食事・栄養について課題だと思うこと
- ⑤ 排泄について課題だと思うこと

- ⑥ 睡眠について課題だと思うこと
- ⑦ 安全管理について課題だと思うこと
- ⑧ 遊びについて課題だと思うこと
- ⑨ 部屋づくりについて課題だと思うこと
- ⑩ 園庭での活動について課題だと思うこと
- ⑪ 園外での活動について課題だと思うこと
- ⑫ 多世代交流について課題だと思うこと
- ⑬ 保育士（乳児・低年齢児担当に限らず）の指導について課題だと思うこと
- ⑭ 最近あった保護者対応の事例
- ⑮ その他、乳児・低年齢児の保育について課題だと思うこと

4. 調査の結果

(1) 保育担当制について

乳児・低年齢児保育を実施している保育所は、66箇所であった。そのうち、3箇所においては「担当制を敷いている」と回答した。60箇所は「ゆるやかな担当制を敷いている」（90.9%）と回答した。残りの3箇所は「敷いていない」（4.6%）とのことであった。

今後は、担当制の内容と、課題との関連についても検討することが必要である。

(2) 保育内容について

食事・栄養分野における課題をはじめとして、上述のすべての面で、多くの課題が述べられた。

保育所内での対応や内容・方法のみでなく、家庭との連携や保護者指導、地方公共団体や法人による解決が必要であるもの等、さまざまな局面を含む課題が述べられた。今後の調査では、これら多方面からの課題を明らかにする必要がある。

特に遊びについては、玩具や遊具、遊びのコーナーの充実に関する課題、若い保育士の遊びの認識についての課題、手作り玩具の充実とそれに関する課題等、多種多様な課題が記述された。

(3) 保育室等の物的条件

保育室、園庭、園外保育エリア、個人情報等についても、多くの課題が述べられた。安全管理についても述べられた課題は多い。今後は、安全管理の面とも絡めて検討する必要がある。

(4) 保護者対応について

昨今の状況を反映して、複雑で困難な課題が述べられているが、今後は、他の要因と関わらせた事例研究が必要であり、数量的な処理をすることは難しいように思えた。

(5) その他

多世代交流をはじめ、その他、調査によって明らかにすることが望まれる課題も多い。

IV 今後の調査に向けて

以上、今後の乳児・低年齢保育の内容・方法の充実・改善を目指して、把握すべき実態と担当者の意識は質的にも量的にも膨大になることが予想される。

得られた記述をさらに精査して、可能な限り有効な調査用紙を作成したい。

【資料】記述内容（重複した内容の記述、及び部屋づくり等7項目については紙面の関係上割愛）

記述1 食事・栄養

- 保護者の中には、食事の面（連絡ノートに朝、夕食のメニューを記入している）で、食材に偏りがあったり、離乳食（現在2人）でバランス良く摂取していなかったりという方もあり、分からないからという理由もあるのでもっといろいろな方面から情報を提供していく事が親切なのかなと思っています。
- 食事を取ってこない子どもに対しての対応について。早朝保育で朝が早くて食べる時間がない。
- 母親が食べないので子どもも食べない。
- 夜眠るのが遅いため早く起きれず食欲がない。
- 給食センターからの給食のみになるので、給食・おやつとも簡単で、配慮が不十分なことが多い。
- 一斉でごちそうさましたり、無理に待たせる事が多い。
- アレルギーの子の除去食等、連絡を密にとる必要があり、連絡帳を作って対応しているが、ミスのないようにすることが重要だと思う。
- センター給食のため、きめ細かな食事にかけるのが残念であり、今後、自園式に計画はされているが、ここ4～5年は無理。（食材の切り方、食器の工夫）
- 対応人数は守られているが、こと食事に関しては、“ゆったりとひとりひとりに合わせ”ということが難しい現状。個々に合わせた援助、ゆったりとした関わり。
- 外国の子どもへの対応が難しい。登園時に甘いミルクやジュースをほ乳瓶に入れて飲みながら来たりする。少しずつ歩み寄っていくが、日本の食事に慣れるまで大変だったり、家庭の食事も把握しにくい。
- 家庭での離乳の進み具合や、アレルギーをもつ子への対応など、個々への対応が求められてきているが、集団生活の中では応えきれないところもある。
- 素材そのものの味になれるための献立（スティックキュウリ、プチトマト）による援助。
- 自園で給食を作り、離乳食も作っているが、しっかりした食事になっているか、不安に思う内容。
- 第1子であると離乳食の進め方が分からない親もいる。育児書を読んだりもしているようだが、慎重になってしまい進まないでいる。ベビーフードの利用率が高い。
- 保育園で午前のおやつがあるからと、朝ご飯を食べさせてこない家庭がある。
- 離乳食をつくるのが面倒だから入所させようとする人がいる。食事がエサにならないように配慮している。
- 食事は園で調理しているので、温かく、乳児に合った細かさにしてありよい。食事を作る場面においても乳児にとっても良い環境であると思う。
- 保育園では、栄養士の献立で、給食を食べる事が出来るが、家庭での食生活が心配な子どもが多い。
- 月から金まで給食センターからの食事で、土曜日は菓子パン（夏場以外は調理パン、おにぎり）である。小中学校もセンターで作っているので、保育園の食事はパンが多い。おやつも市販されているもので、毎日違うが、甘い物が多く、食事に影響する時もあり、食事の反省で出し改善されつつある。
- 市の栄養士さんが考えたメニューなので、栄養的にはよい。あとは担任と調理員が話し合い、野菜の切り方や大きさなど、子どもの状態を見ながら行っている。
- 栄養士と調理員と保育士が子どもの状態を見て毎日進めているので、特に0歳は問題ないと思う。
- 月齢に応じてはもちろんであるが、個々の咀嚼力に応じた調理の仕方をしてもらうよう、給食室との連携を取ること。
- いつまでもミルクを与えられていて食べる事を知らない子どもがいます。又保護者が忙しく、コンビニで済ませてしまったりと、食べた事のない食品が多くなってきている。又家にいる時は菓子を食べる食事を取らないという声も聞かれる。
- 離乳時期になってもいつまでもミルクを飲ませている親がいるかと思うと、はやめに普通食にもっていったりである。子どもより親中心の生活であ

る。

記述2 排泄

- オムツからパンツへの移行時期等は、園での様子を見てお母さんと相談しながら決めています。お母さん達との話の中で「ウンチが出る」と言えるようになった等の報告があったりすると嬉しいものですので、今後も細かな事でも出来るだけ密に連絡を取り合う事が、その子に応じた指導が出来ると感じています。
- オムツ替えの時に下に敷くマットについて、尿のみの場合と大便の時と分けてはあるが、どの子ども同じマットを共有しているので、不潔感はあるが、ひとり一人変えるのも大変。シートを利用することを考えたが、他にいい方法があれば。
- トイレのない保育室（幼児と一緒に、隣の部屋を通って行く）や、構造上窓がなく、部屋に密接しているので、換気の点で課題。
- オムツの保管が衛生的でない。
- 担当制を取って（トイレの中で見守る人、オムツはずす人）すれば合理的だと思うのに、担当者は一人の人が全てその子の排泄に関わる段階はやりたいという考えであり、どちらがよいのか不明。（今は担当に任せている）
- 排泄後の手洗いが徹底できない。衛生面の管理。
- まだ、和式のトイレであるため、現在、洋式のトイレにしてもらえるよう要望している（全部でなくてもいいので）
- トイレトレーニングに対する早期の要求（年齢に合っていない）と、家庭において園と平行しての努力が見られず園任せであることの指導。
- 平日、良いリズムが出来ていても、土・日家庭にいる間、もとに戻るといふ声を聞く。
- 保育園でトレーニングをしてもらえ、もらえばいいと思ひ、家庭でしようとしなない親がいる。保育園と家庭と一緒にやってみようと思ひ働きかけをしているが、家庭ではなかなかやってもらえない。
- 2歳児のクラスは、トイレが外テラスを出て行かなければいけない。寒い冬の日もパジャマ1枚でおしりを出し、トイレに行っている状態で建物上の問題を感じる。
- 紙オムツを頻繁に替えるので親からクレームがある。紙オムツの場合はごく少量ならそのまま使用しても良いのでは。
- 月曜日のオムツかぶれがひどい。日曜日の家庭での過ごし方が原因ではないか。園でシャワーをしたり薬を塗ってはいるが、日曜日の後がかぶれている。
- 紙パンツから布パンツにして欲しいと保護者からの強い要望がある。
- オマルを使って、働きかけたり、乳児用の洋式トイレがあり、月齢に応じて使い分けている。オマルも消毒しながら、清潔に使うようにしている。
- 紙パンツを使用する家庭が多くなり、オムツ取れが遅くなってきた。
- 紙オムツを替えない保護者がいる。（お金の面、面倒）布オムツは洗わなくてはいけない→時間がない→保育園に行けばはずしてくれる→親は方法を知らない
- 保育雑誌などの影響でなのか、はやくパンツにしたいと焦る姿も見られる。個々の子どもに合わせて、目の前にいる子どもに合わせて進めていけばよい、ということを知らせる必要性も感じている。
- 手洗い場が高いので、指導していくには少し困難
- オムツを替える時、子どもを寝かせる布団（シート）があるが共同であり、清潔でないと思ふ。が、実際には一人ずつ替える事が出来ない。
- トイレの入り口で寝かせ、おむつ交換をしているが、場所を考えたい。
- すぐれた紙オムツのおかげで、親が紙オムツを一日に使う数を限定してくる。
- 1歳児、2歳児の部屋はトイレへの出入りが保育士の目の届くところだが、0歳児のトイレは室内に設置してあり危険な為使われない。利用法はないか。
- いついつまでにオムツを取っていくというような感覚が私自身に強くなってきている。あまりにも様々な家庭、母親がおられ、「そのうちとれる」といふ思いの中でお子さんに沿ってといふ思いを担当者に伝えている。
- 2歳児クラスで自立したかのように見えていた子どもが3歳児クラスになり、退行現象を起こす。
- 失敗しないために、時間で確実に行かせたり、一斉に行かせる体制がつよい。
- オムツを替える際、共同のバスタオルの上で、替えているため、清潔の面で少し不安がある。オムツを替えるだけの特別なスペースがなく、衛生的には清潔と言えない。
- おむつ交換で、個々のオムツ交換の為の下にしく布、又は紙等があるのだが、紙（新聞紙、広告紙）であるかどうかと思ふ。しかし、布にすると清潔

面で考えると。

- 2歳児クラスは、幼児の保育室を使っている為、トイレは幼児用なので心配。室内にトイレがないので、おしりを出したままテラスに出るので不衛生な面もある。
- 狭い室内にくっついている為、衛生面、視覚面（子どもの目線）で問題である。
- 紙オムツや紙パンツがほとんどの時代で、私も悪いとは思わないが、子どもが親から手をかけてもらう事の減少や清潔が保てなかったり、皮膚のちょっとした変化に気付くことが遅くなるという事があると思う。
- 直す予定だが、乳児のトイレがまだ和式なので、特に女の子はつらいかもしれません。
- トイレトッパーは設置すると遊ぶ子がいるし、ないと困るので、上に置いておき、その都度保育士が渡しているが、どうすればよいか？
- 2歳児の部屋の構造上、トイレと生活空間がアコーディオンカーテンで仕切られているが、常に閉めては置けない事から、衛生的でない事。
- ほとんどの子が保育士の手によって、排泄が出来るようになってきている。親の協力は少ない。オマルをおくスペースがないので、部屋の隅にタオルなど敷いて置いてあるが、衛生面、プライベートルームとしての保障がしにくい。
- おむすの失敗をととても嫌がったり、オムツかぶれも平気な親が増えたので、教えていかななくてはいけない。
- 排泄物の処理の仕方がだんだんきびしくなり、手袋、消毒処理を個々にする対応はとても大変である。
- オムツ替えの敷きマットが一人ずつ有り、清潔とは思いますが、保管場所、保育士の使い勝手、家庭での洗濯と思うと、どうしたものだろう。
- 使用済みのオムツの扱い方（園で処分なのか、家庭で処分なのか）
- 冬のトイレは暖房がない。1、2歳児の排泄の姿は、パンツを脱いで下半身裸でトイレに行き、排泄をする。室温が低い上に便器（洋式）も冷たい。快適とは言えない。トイレと暖房設備を完備するか、温便座を設置するかが急務と考える。
- 排泄時に使い捨ての手袋を使用しているので、オムツ替えは良いが、洋式便器おまるの複数使用の清潔面に不安。
- 園での対応は、基本的に3歳までには自立をめざし、早くにトレーニングが終わる子が多いが、家

庭で園任せになってしまう傾向が多く、やっってもらえるので楽という感触の親が増えてきている。

記述3 睡眠

- 年齢に応じて睡眠時間にはかなり差が見られますが、保育室の関係で静かに充分寝かせてあげられるという状態を作る事が難しいのが課題です。というのも元々職員室だった部屋を0.1歳児用に保育士室に変えた事に無理があると思いますが。
- 人数に比べて、布団をひくスペースが少ないのでゆとりがない。
- 比較的静かな環境では眠れるが、布団置き場で保育室の空きスペースが少ない。
- 現在は0歳児がいないため、全員お昼寝に入る時間が同じなので、特に問題はないが、0歳児で途中眠った場合ザワザワした中で眠る事になる。
- 個々のリズムを大切にしたいと思うが、眠い時にぐっすりと寝かせてあげられる環境や、保育士の動き（連携）が難しい。そこをどうしていくか。
- 個人差があるため（年齢や家庭の状況）一人一人に対応したいがやはり全体の流れに合わせていこうとする。
- 夜、寝かせる時間が遅い子が多くなってきており、午前中機嫌の悪い子も多いが、家庭の事情もあり、家で改善されるのを望むより、園で出来る事を見つけて行かなくては、という現状である。
- 午睡の必要性を感じず休みになるとリズムが崩れてしまう。
- 子ども中心の生活リズムを作るようどう働きかけるか？（子どもの事を考えた）
- 朝からごろごろ。顔色が悪く、大あくびをする子。生活表を確認すると、昨夜の就寝時間は、11:00過ぎ？朝は登園時間ギリギリまで寝ているという状態。
- 寝付けない子の配慮をもう少し丁寧にするべきである。無理に寝かせない。しかしねかしつけないと習慣になる。（2歳児が特に）
- 起きている子と寝ている子は、フローアと畳の間に柵を設けて、睡眠時間を保障しているが、やはりバタバタドンドンうるさい時があるので、本当は良くないなあと思っている。産休明け児は呼吸をしているかを15分間隔でみたり0歳児はうつぶせ寝させないよう気を付けていきたい。
- 深夜に、ゲームセンター、コンビニ等、又父親の夜勤に合わせて眠ってしまい保育園にこれない子もいる。（母親はすでに出勤）付き添われて眠る

事の実験が少ない子もいる（気が付いたら所構わず眠っていた）

- 部屋が狭いため、0歳児のベッドが人数分おけず、床で午睡しなくてはならず、落ち着かなかった。
- 0歳児は月齢、状況に応じて対応している。
- 睡眠の大切さ等を知らせているが、保護者の都合で夜更かしをする。そのため、機嫌が悪い等、ひっくるめて知らせるが、保護者の思いが優先となっている。
- 0歳児と部屋は別れているものの、1歳児、2歳児と睡眠時間が違うため泣き声で眠れない、せっかく寝ていた子も起きてしまうなど、集団で眠る事の個々への環境の配慮。
- 1歳児は午前中に寝る子もいるので、その子に合わせて寝かせてはいるが、食事中に寝てしまう事が多い。
- 夜寝ないから、早めに起こして欲しいという親の要望。
- 出産された産院で、“添い寝しながら授乳する方法”を教えられる事もあり、ママのおっぱいがないと眠れない子が多くなっているのでは？
- 入所後しばらく、とにかく眠れず、お子さんも大変、保育士も大変。とにかくおんぶすることになる。
- 夜型の子供が増えている。眠くて遊べない、機嫌が悪い、すぐキレるなど、悪循環となるので早く寝る習慣を付けられるとよいと思うが難しい。
- 早朝から登園する子、昼近くに登園する子とまちまちの中、その子にあった睡眠時間を確保するのが難しい。保育士間の動き。
- 0, 1歳児合同保育のため、午睡がある0歳児や1歳児前半の子どもの落ち着いた環境が作れているか疑問。
- 1, 2歳児合同のクラスなので、午前、午後、眠る子への対応が不十分。午睡時間に職員の休憩をとったり、その間に片付けたい雑用も多く、午睡時間の個人対応が出来ない。
- 0歳児の睡眠時間がまとまっていない時、又、入園間際で不安定な時は、なかなか安心して寝られなかったり、大きい子の元気のよい声で起きてしまったりするとき、有効な睡眠のためのコーナー作りとは何か？
- 睡眠時間に差があり、同じ部屋の中で、眠っている子とおやつを食べている子がいる。
- 個々の睡眠が違うので、その個に合わせたデイリーが必要であると思うが、保育士の人数等、なかなか

か思ったような保育が出来ないのでは。

- 生活リズムが乱れていたり、月齢が低いと午前中の活動の場面で眠たくなる事がある。そんな時部屋の隅で眠らせているが、場所が確保されていない。
- 狭すぎて、くっついて布団をひくので、ゆったり添い寝ができない。保育士対子どもの数が多いので安定できない。
- 睡眠時間が少ない子（夜昼合わせて）が増えてきている。特に昼寝をさせていない親が多い。寝かしつける事が出来ない。寝かしつけるという事を知らない親も増えている。添い寝やそばで触れられる事を嫌がる子どももいる。
- 1歳児からの受け入れではあるが、0歳の子が1歳として入ってくる。午前中の睡眠など、保障しにくい。他の部屋を使用する時もあるが、保育士が一人付きっきりになる体制にはない。集団で眠るのに不安のある子はいったての中、他室で眠らせる工夫もしている。
- 午前の睡眠を取る場所がなく、職員室で寝かせたりする環境を考えたい。
- 親の都合の睡眠時間で、育てられている。出来るだけその子に合わせてと思うが、職員数の関係上、添ってあげられなかったり、時々、その場から離れることも。
- 2歳児クラスに1歳児が入っている事、その子自身7:30登園で体力的にも睡眠が前倒しになって食事時間にうとうとはじめる。担任は、本児の様子を見て、早めに睡眠させている。家での生活も少し夜型という感じもあるか。
- 集団の中でいかに心地よく眠っていくか。時々、マイクで放送をしながらの車が通っていくのが気になります。（午睡中）
- 早寝早起きが出来ず、寝ている状態で登園してくる。
- 園での睡眠より、連絡帳に記入されている家庭での時間が気になる子が多い。早朝保育で来る乳児が多く、起床時間は早いですが就寝も10:00-11:00などと遅い子も多い。午前の機嫌が悪く生活リズムができていない。

記述4 遊び

- 遊具は既製の物が多いと思いますが、おんぶひも、エプロン、ままごと用机、椅子、戸棚等は手作りの物を使っています。必要に応じてコーナーを作っていますが、スペース的に常時コーナーを作っておくという事が出来ないため、その点で子どもた

ちの遊びの継続や満足度はどうなのかなと思って
います。

- もっと発達に応じた手作り遊具を多く作っていき
たいと考えています。
- 手作りおもちゃが少ないが、パネルシアター作り
に力を入れている。発達に合ったおもちゃが（手
作りおもちゃ）が必要であると思う。
- 各々の課題に見合った遊びの内容がされていない。
幼児と同じ体操や遊びの内容
- 落ち着いて遊べるコーナー等を考えていけると良
い。1歳児が2階、2歳児が1階と分けて保育を
行っていたが7月より合同に（2階にて）したた
め、これからの課題である。（1階は元々幼児の
保育室をカーペットを敷いて乳児室になっていた
ため、トイレがないなど、不都合も多かった）
- 今の保育士の傾向なのかあまり手遊び、歌遊び等
をしない事に対してどのようにやろうとする意欲
を持ってもらうかが課題。
- 子どもの発達に合わせた遊び環境を用意する事。
保育士が子どもの発達を知り、援助できること
（活動ばかりに走る傾向や、子守状態になってい
るなど、様々な現状がある）
- 乳児専用の戸外での遊び場がないこと、室内もス
ペースが狭く遊戯室の利用も限られている。
- 0.1.2歳児の合同クラスのため（3歳以上児増加
のため部屋数が足りなくなった）それぞれの年齢
の落ち着いた時間が持てるように、気を付けてい
る。特に2歳児の活動量が増えてくるので、0.1
歳児が安心して安全に遊ぶ空間と時間を確保し、
2歳児がじっくり遊びながら友達との関わりも持
てるようにしていく事が課題だと思う。
- 発達年齢が違う子どもたちが充分楽しめるための
環境作りや保育士間の連携、子どもの姿から遊び
をどう工夫していくかの意思統一。
- 一人一人の子どもの姿を見て必要と思われる遊具
（手作りおもちゃを含む）を考え準備するよう心
がけているが、「準備をする時間がない」という
声も聞かれる。計画を立てて準備する時間を作る
ようにしたい。
- 乳児期は人間としての成長発達が最も著しい時期
で、立つ→歩行→走る等身体の動きが活発になる。
また、言葉の獲得などが遊びの中で保障されるよ
うにしたい。発達の時期に合わせた、玩具や遊具
を出したり、遊びを提供できるよう保育士がよく
知る事が大切である。発達課題とその時期にあっ
た遊びをたくさん知る事。

- 他児に遊びを邪魔されない援助配慮
- 子どもの興味、発達のキャッチが弱く、遊びに結
びつけていない事がある。
- やはり保育士の出番であり、保育士が遊んであげ
るのが仕事であると思うが、自分から遊ばない保
育士がいる。
- 乳児の情緒を安定させ、順調な発育を支えるため
には温かいふれあい、優しい語りかけを大切にし
ている。大人との信頼関係が大切だと思う。
- 月齢の発達に遊びを広げるために、手作りのおも
ちゃなども作っているが、もっと作っていきたい。
- 手に届くところに玩具や絵本がおいてあり、自分
で選んで遊べるようにしていきたい。
- おもちゃコーナー作りの学習
発達に合わせておもちゃを出している。設定遊具、
斜面作り、階段等の工夫。手指を使ってのおもちゃ
やみたてつもりができるコーナーを作っている。
保育士も勉強していると思う。
- 年齢、発達に合った玩具が用意されているかどう
か。又、教材についても不適當な物が使われてい
る。教材研究をしていくこと。
- 1,2歳児が同じ保育室なので、互いの発達をしっ
かりと把握して遊びを設定はしているが、2歳児
の動きに合わせた設定になりがちになっている。
ひとつの部屋の中で生活をし、又遊びもするとい
うことでコーナーの設定には考えながら取り組ん
でいるところ。
- おもちゃ類はたくさんあるが、それと片づける子
どもが見て分かるように、片づけやすいような工
夫が必要である。箱にどんと人形をいれたり、お
ままごとを入れたり、スペースが狭いが工夫を感
じる。
- 仕切を作りたい（コーナーを作るのに）
- おもちゃを製作する時間が取れない（計画的に進
めなくてはいけない）
- コーナー作りが充実していない。部屋の空間上、
ままごとコーナーを作っても違う遊びの時にそこ
を解体してしまうといった状態である。乳児には
手作り玩具でいろいろな生活体験をさせてやるの
が良いかと思うが、時間がとれないこと、それを
作ろうという意識にかける。
- コーナー作りをして遊びを進めているが、部屋の
スペース的な問題から、片付けを余儀なくされて
しまい、いつでも遊べるコーナーにはなっていな
いこと。
- 遊びのコーナーを作る場合、間仕切りに柵、整理

- 0,1歳児については、個々の遊びを一人一人が楽しめるように援助をするが、2歳児ともなると、仲間意識の出る子や一人で走り回る子等、保育を担当する保育士の連携や細かい打ち合わせなどで、遊びが変わると思う。話し合いの時間をとる工夫を！
- 0,1歳児が同じ部屋にいます。3か月目の子と2歳になった子たちの動きは違うので、室内、ホール等、あらゆる場所で工夫して遊びます。一人一人に合わせていますが、かみつきの多く、保育士は悩んでいます。
- 2歳になると、1歳児でも受け入れるという事であるため、年齢の開きがあるので、遊びの面で開きがあり、遊ぶのも状況によっての差がとても大きい。
- 2歳同士でゆったりとあそんでいても、突然かみつきの起こるなどがある。
- 若い保育士や臨時保育士が多いので、思い通りの遊びを提供することがあるので、発達年齢に合った遊びを考えていくことが必要だと感じる。
- 玩具が子どもの人数に対して、少ないので、手作り玩具をもう少し準備するとよいと思う。
- 子ども達が見て、遊びを選べるように幼児はコーナー遊びが充実しているが、乳児（特に0,1歳児クラス）は、保育士が選んで与える状態なので、工夫が必要。
- 一人一人がゆったり遊ぶには部屋は広いが人数が多いため、難しい
- 一人、おもちゃをおとしたり、目にはいるとすぐに遊びだしてしまう子がいるので、コーナーが作れず片付けに追われている。

記述5 安全管理

- 避難訓練（特に地震の場合）で、もし午睡中に地震が発生したら、乳児はどうやって避難するか？という事で以前に話し合いました。大勢の園児をとうてい抱きかかえるには足りない保育士なので、やはりそういう時は布団をひっくり返して物が上から落ちてくることを防ごうと言う事になりましたが、果たしてそれでいいのでしょうか？
- 地震対策はしているが、棚の上の乗せてあるものが多い（棚は転ばないが乗せてある物が落ちてきたら、何らかの形で当たると予想されるので、常に注意してもらっているが守れない）
- きめ細かい消毒が出来ていない。（毎日の床拭き、週一のおもちゃの消毒）の徹底
- 動きの規制に先走り、安全優先の環境が整わない。
- 乳児室が2階にあるため、安全管理についてはいつも問題になる。例えば、不審者侵入の合図（笛、防犯ブザー等）を鳴らしても聞こえないとか、避難用の滑り台は、かえって危険なので、少人数ずつ降ろさなければならない等問題は多い。
- 避難訓練は、園舎の作りもあり、避難車が手近なところに常時おけないということ、と大回りしていかなければならない（スロープを通るため）
- 多くの職員が携わると、価値が多様となる（安全に対する意識）。マニュアルや基準を作る事で、ある程度統一がはかれるとおもうが、なかなかそこまでできない現状がある。全体の周知徹底。
- 室内のコーナー作りに柵で仕切ったり、物を置いたりしているので、子どもの成長や動きに合わせて変化させていくことも必要である。
- 4月当初は点検、行動の把握に緊張感を持って行いが、徐々に慣れから来る安易な確認となってしまう。
- 保育室内の安全管理は、意識しているが、共同部分（トイレ内、ローカ）に色々な物が置かれているので（落下物の危険）、整理整頓と合わせ定期的に確認していく必要がある。
- 乳児は思いもよらない所で大きな怪我につながる事が多いと思う。先日でも20センチほどの高さの所から転がり頭を打ち、病院にかかると言う事があった。幸い何も無く無事であったが、色々な事を想定した遊具や、玩具の配置が重要だと思う。かと言って、あまりに安全と言う事で保育ががんじがらめにならないよう気を付けたい。
- 避難訓練の際帽子を被るか否かが問題になり、賛否両論であったが、現在は訓練であるので帽子を被るのも実行している。
- いたずらにも意味があります。充分に見守り子どもの気持ちを受け入れる。しかし危機管理の問題もでてきているので、もう一度園全体で見直していきたい。
- 避難時に必要なエアバスが普段は保育室前に設置してあるが、雨天時はひさしのある場所におくので、いざという時に子どもの安全確保に時間がかかることが予測される。
- 何でも口に入れたりする事が多いので、危ない物はよけておく。
- 玄関はオートロックで顔を見て確認してから開けるようにしている。
- 県警直結の警報装置をつけている。課題は散歩な

ど外出したときの地域のコミュニケーションによる不審者対策ができればと思っている。

- 看護師さんがいてくれたら嬉しい。
- 窓ガラスのストッパーがあると、より安全。引き戸には取り付けてある。
- 緊急時の避難経路で、階段をおりないと、外へ出られないので乳母車の置き場所に困っている。
- 物的環境は、十分配慮していると思うが、人的環境で事故につながる事が多いので（ドアの開け閉め等）安全面での配慮の徹底。
- 保育所の建物が古いため、子どもの視線的に見て、危険な物は気付くと対処はしているが。
- 子どもの数が多いのに、ベビーカーが少ない。必要だが防災ずきんをかぶせるとかなり泣いて移動が困難。
- 園庭に木があり、木陰の遊びが出来て良いが、毛虫がよく発生する。消毒はしてもらおうが、全部は取りきれない。
- ヨチヨチ、ハイハイ、アンヨ、ランラン（走る）この様子のお子さんが一室にいる事自体が問題。0,1歳と2歳児は別室であるが、0,1歳児が同室。あちこち、スポンジ対策をして、とにかくよく見て防ぐこの毎日。
- 探索行動が盛んになってくる、1,2歳児だからこそ、保育室だけでなく、テラスやうさぎや亀のいる所へも行けるようにと、保育室のドアをいつも閉める事をやめた。その結果、子ども達は、自分の興味のある場所へ行き、楽しそうにしている。しかし、乳児の目線になってみると、幼児クラスの物の置き方、場所など、危険と思われることも多いので、今一度見直しが必要だと思う。
- 最近の設備で、環境に恵まれているが、不審者対策、子どもがいなくなった場合など職員間で訓練を重ねている（マニュアルに基づき）
- 廊下に遊具玩具が置いてある。（ずいぶん減らしたつもりであるがまだおいてある）緊急避難の際、大丈夫だろうか心配している。
- 段差を無くした保育室になっけていても、ロッカーなどには角があり、それを保育士の工夫によって解決し、手直ししている。本当に安全なのかと考えてしまうことがある。2歳児クラスは、保育室全体に畳が敷いてあり、床に関してはクッションとなっている。
- 乳児室は、1階にあり、避難の仕方、方法など、常に考えてある。
- 乳児の人数が増えてきたという事で、建て増しを

したりして、乳児の部屋の風通しが悪くなり、また暑い出入り口を開けておくと、子どもが出て行ってしまおうという事もあり、閉めておくが、開閉が大変である。柵を考えているが、園舎の構造上、なかなか難しく、思案中である。

- 今はコーナーも出来、ちょうど良い広さなのか、かみつぎ、ケンカ等も少ないと思う。
- 大人の高さで物が置いてある事が多い。収納式で物が片付けられていない。
- 外へ避難するとき3歳以上児のように防災頭巾もないし、普段から上靴も履いていないので、靴の持ち出しやいかに安全に避難させるか等、課題が多いと思っている。
- 避難に関する事は、職員には周知してあるが、臨時保育士や補助員、パート、早朝延長週休パート等、勤務態勢が複雑になってきているので、全員に周知できていない。訓練についても少ないと思う。
- 園庭での遊びの場合、遊び場が仕切られている事から幼児との関わりの部分で方法を考えていなくてはいけない。（4期くらい）
- 昨年、安全管理について、園内研修で取り上げたので、ものを柵の上に置かない、角の防止、子どもの目線動線に気を付けチェックしたり耐震チェックなどしたが、人的な安全管理が不十分。保育士の意識（爪、髪、服装）や保育士の立つ位置、気配りがとても気になる。
- 避難訓練をしますという日は、朝から乳母車を用意。日頃は散歩前に準備。本音と建て前でないとやっていけないのが現実です。ブラジルの子ども…病気、嘔みつき等に異常に反応、そのところに特に注意している。
- 角にコーナーガードを付けたり、子ども達の動きに合わせてコーナー作りを心がけたり、衛生面への配慮等にも心がけているつもりだし、戸外遊びには乳児ゾーン等を作ったり、少しでも安全に遊べるようにしていますが、その中で保育を行う人の危険に対する意識をもう少し持てるようにしたい事。
- 散歩マニュアルを作成している。中に園との緊急連絡は個人のケータイで対応しているが、個人持ち是不適切。
- 保育書類を園から持ち出し家庭で記入している。個人情報守秘義務からも、園内で処理できる態勢の急務を痛感する。
- 乳児用の椅子が大きすぎる（年齢に合わせたもの

が良い) 横からずり落ちる事がある。

- 乳児室は、危険のないよう配慮しているつもりではあるが、入り口のフェンス（飛び出し防止）やドア（サッシ）など危険の予想される場所は、毎年、役所の修繕の予算案に出すが、お金のかかる事なのでなかなか通らない。2人の保育士では目の行き届かない点もある。

